

## 国民健康栄養調査

### 5. 調査方法

- 1) 身体状況調査:
  - 調査対象者を会場に集めて、調査員である医師、管理栄養士、保健師等が調査項目の計測及び問診を実施した。
- 2) 栄養摂取状況調査:
  - 世帯毎に調査対象者が摂取した食品を秤量記録することにより実施し、調査員である管理栄養士等が調査票の説明、回収及び確認を行った。
- 3) 生活習慣調査:
  - 留め置き法による自記式質問紙調査を実施した。

25

## 生活習慣の介入効果のエビデンス

Dグループ

亀ヶ谷、高嶋、中村、三浦、坂田、岡山

## 目的

- 生活習慣病予防のための介入対象、方法について疫学的なエビデンスの蓄積状況とその政策的な位置づけを検討して、緊急的な研究課題を明らかにする。

## 分類方法

- ◎ 研究成果が十分であり 政策的にも位置づけられている
- 研究成果は十分であるが 政策的には不十分
- 研究成果が至急求められている
- △ 研究成果の蓄積が不十分で評価が難しい
- × 取り組みがほとんどなされていない

## 喫煙と飲酒の比較

	喫煙	飲酒
総括評価	◎	□
診療の場	◎ 保険診療 ○ 健康増進法	× 節酒外来 □ 節酒指導
個別指導	◎	□ 節酒指導
特定保健指導	◎	× 節酒コンテスト
キャンペーン型健康教育	◎ 禁煙コンテスト △ 講話	× 節酒コンテスト × 講話
集団型健康教育	△	
環境整備	◎ 分煙(健康増進法) □ 分煙(労安法) □ 分煙(条例)	× 場所(屋外など) × 時間帯 × 健康維持のための飲酒指針 △ 適正と考えられる飲酒量(健康増進法)
集団全体への対策	? 喫煙者(タバコラベル)	△ 情報提供(自主規制のみ) × 時間帯 × 健康維持のための飲酒指針 △ 適正と考えられる飲酒量(健康増進法) ○ 年齢確認
未成年対策	◎ 年齢確認 △ 防煙教育	
介入効果の新エビデンス		

## 運動と食事の比較

	運動	食事
総括評価	○	○
診療の場	△ 運動外来	□ 栄養指導 □ 教育入院 □ 健康増進法
個別指導	○ 運動指導	□
特定保健指導	□	□
キャンペーン型健康教育	◎ 運動キャンペーン	×
集団型健康教育	○ 講話、実技 △ 運動教室	△ 講話 △ 調理教室 □ 栄養表示
環境整備	△ ウォーキングコース △ サイクリングコース △ その他の運動施設 △ ウォーキングマップ	× 食事パターン(和洋)
集団全体への対策	△ ウォーキング大会	□ 食事バランスガイド □ 塩分 × 脂肪 ? 食育 ? ハイリスク者への食事モデルの確立 ? 特定保健食品
未成年対策		
介入効果の新エビデンス		

## 栄養・食事関連のエビデンス

- 三大栄養素のバランス...△
- 減塩...◎
- 野菜・果物...□
- 乳製品...◎
- 脂質...◎
- エネルギー...◎
- 糖質...□
- 食事リズム...△(観察研究□)
- ・朝食抜き...△(観察研究□)
- ・間食...□
- ・遅い夕食...△
- 生活リズム...△(観察研究□)
- 減量...◎
- ストレス...△
- 労働...△

## 飲酒

- ・適量飲酒量(平均1合/日)の周知
- ・(他にリスクのない)多量飲酒者への節酒介入
- ・集団全体への節酒介入
- ・遺伝、肝炎ウィルスの保有状況を考慮?

## 食事

- ・より健康的な日本型食事パターンを明確にするフィーディングスタディ
- ・青壮年男性の食事パターンの修正

職域における青壮年男性の多量飲酒予防および適切な食事摂取のためのポピュレーションアプローチの確立

- ・複数の職域集団(健保)  
を介入群と対照群に割り付
- ・介入手法については検討中(含配偶者)
- ・アウトカム  
飲酒量、多量飲酒者の頻度の変動  
食事内容の変化  
血圧など危険因子の変動

## E.生活習慣病の絶対リスク等 に関するエビデンス班

大阪大学	磯博康
	村木功
京都大学	中山健夫
東北大学	大久保孝義
滋賀医科大学	村上義孝
	藤吉朗

1

## 提言

- 疫学的基本情報の包括的な提示
- 戦略的な情報発信

2

## 疫学的基本情報の包括的な提示

- 発症率・死亡率といった自然史にかかわる疫学上の基本情報を包括的に含むデータに乏しい。



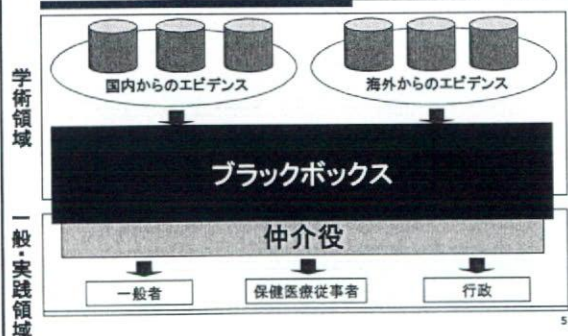
\*四大疾患: 脳卒中、心臓病、がん、糖尿病 3

## 疫学的基本情報の包括的な提示

- (1) 既存コホート・データからエビデンスを提示
  - 性・年齢階級別の死亡率・発症率を含むコホート・データから基礎資料として提示
- (2) pooled dataの結果を、ウェブなどで公表・更新するシステムを
- (3) 将来的には、四大疾患(脳卒中、心臓病、がん、糖尿病)の登録システムを国家プロジェクトに
  - 政策に資するデータ・ベース構築
  - 発症率・致死率の地域差の検討
  - 医療の均てん化に活用

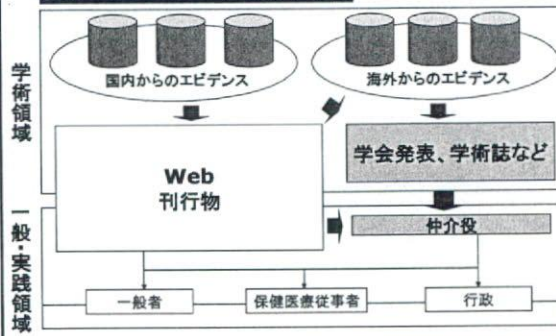
4

## 戦略的な情報発信



5

## 戦略的な情報発信



6

## 戦略的な情報発信

### (1)“ヘルスコミュニケーション”の充実

- 対象者:行政、マスコミ、一般人に的を絞った表現・見せ方を
- 臨床家に目のつきやすいメディア(雑誌、学会、Web、テレビ)
- 英語による情報発信

### (2)一般人への情報発信

- 生涯リスク、平均余命などの理解しやすい指標を発信
- 一般人に理解されやすくリスクを伝える方法(図表)の開発
- 研究テーマとしてもヘルス・コミュニケーションが重要

### (3)政策決定者への情報発信

- 目に触れるメディア・チャンネルをつくる必要性
- 必要な情報、かたよりのない情報

7

## 戦略的な情報発信

### (4)臨床家に対する情報発信

日本のコホート(研究)の存在および存在意義を臨床家に

- “日本のエビデンス、Framingham Studyからの脱却”というタイトルで日本高血圧学会でシンポジウムを、その後、日本主要7学会(日本肥満学会、日本動脈硬化学会、日本糖尿病学会、日本循環器学会、日本腎臓病学会、日本血栓止血学会、日本内科学会)へ拡大
- 循環器予防疫学のような入門教科書の刊行
- 罹患率などの統計情報を専門誌に定期的に発表する
- 絶対リスクの情報発信

観察研究vsRCT

- “研究ピラミッド”が氾濫している現状
- 観察研究のもつ強み(死亡率、発症率、幅広いpopulation)
- 観察研究とRCTとの齟齬が出た場合どう考えるか

8

## 提言

疫学的基本情報の包括的な提示

戦略的な情報発信

9

## 班員・担当者 一覧

	所 属		職 名	氏 名
研究代表者	滋賀医科大学	社会医学講座公衆衛生学部門	教授	上島 弘嗣
研究分担者	大阪大学大学院	医学系研究科社会環境医学講座公衆衛生学	教授	磯 博康
研究分担者	東北大学大学院	薬学研究科医療薬学講座臨床薬学分野	教授	今井 潤
研究分担者	国立循環器病センター	予防検診部	部長	岡村 智教
研究分担者	(財)結核予防会	第一健康相談所	所長	岡山 明
研究分担者	九州大学大学院	医学研究院環境医学分野	教授	清原 裕
研究分担者	札幌医科大学	医学部第二内科	講師	斎藤 重幸
研究分担者	岩手医科大学	医学部衛生学公衆衛生学	教授	坂田 清美
研究分担者	愛知医科大学	医学部公衆衛生学	准教授	玉腰 暁子
研究分担者	東北大学大学院	医学系研究科公衆衛生学分野	教授	辻 一郎
研究分担者	金沢医科大学	健康増進予防医学	教授	中川 秀昭
研究分担者	京都大学大学院	医学研究科健康情報学分野	教授	中山 健夫
研究代表者	滋賀医科大学	社会医学講座公衆衛生学部門	准教授	三浦 克之
研究分担者	滋賀医科大学	社会医学講座医療統計学部門	准教授	村上 義孝
研究分担者	(財)放射線影響研究所	臨床研究部	副部長	山田 美智子
研究協力者	茨城県	保健福祉部保健予防課	健康危機管理対策室長	入江 ふじこ
研究協力者	獨協医科大学	公衆衛生学講座	助教	西連地 利己
研究協力者	茨城県	保健福祉部	次長	染谷 意
研究協力者	山梨大学大学院	医学工学総合研究部社会医学講座	助教	田中 太一郎
研究協力者	神奈川県立がんセンター		部門長	岡本 直幸
研究協力者	愛知医科大学	医学部公衆衛生学	教授	菊地 正悟
研究協力者	鳥取大学	医学部医学科	教授	黒沢 洋一
研究協力者	関西労災病院	医療情報部	部長	和田 安彦
研究協力者	守山市民病院		施設長	塩 榮夫
研究協力者	新潟大学大学院	医歯学総合研究科	教授	鈴木 宏
研究協力者	名古屋市立大学大学院	医学研究科	教授	徳留 信寛
研究協力者	人間総合科学大学大学院		教授	星山 佳治

研究協力者	千葉県がんセンター	疫学研究部	研究部長	三上 春夫
研究協力者	京都府立医科大学大学院	医学研究科	教授	三木 恒治
研究協力者	秋田大学	医学部社会環境医学講座	教授	本橋 豊
研究協力者	札幌医科大学	医学部公衆衛生学講座	教授	森 満
研究協力者	福岡県保健環境研究所		所長	吉村 健清
研究協力者	京都府立医科大学大学院		教授	渡辺 能行
研究協力者	東北大学大学院	薬学研究科医薬開発構想寄附講座	准教授	大久保 孝義
研究協力者	東北大学大学院	薬学研究科 21 世紀 COE プログラム	COE フェロー	浅山 敬
研究協力者	東北大学大学院	医学系研究科発生発達医学講座遺伝病学分野	日本学術振興会特別研究員	目時 弘仁
研究協力者	国立循環器病センター	予防検診部	医師	小久保 喜弘
研究協力者	国立循環器病センター	予防検診部	医師	渡邊 至
研究協力者	国立循環器病センター	予防検診部	専門修練医	東山 綾
研究協力者	九州大学大学院	医学研究院環境医学分野	特任講師	福原 正代
研究協力者	札幌医科大学	医学部第二内科	講師	大西浩文
研究協力者	札幌医科大学	医学部第二内科	助教	赤坂 憲
研究協力者	札幌医科大学	医学部第二内科	大学院生	三俣 兼人
研究協力者	札幌医科大学	医学部第二内科	研究生	吉原 真由美
研究協力者	札幌医科大学	医学部第二内科	研究生	千葉 瑞恵
研究協力者	札幌医科大学	医学部第二内科	教授	島本 和明
研究協力者	岩手医科大学	医学部衛生学公衆衛生学	講師	小野田 敏行
研究協力者	東北大学大学院	医学系研究科公衆衛生学分野	准教授	栗山 進一
研究協力者	東北大学大学院	医学系研究科公衆衛生学分野	助教	寶澤 篤
研究協力者	東北大学大学院	医学系研究科公衆衛生学分野	大学院生	永井 雅人
研究協力者	金沢医科大学	健康増進予防医学	教授	森河 裕子
研究協力者	金沢医科大学	健康増進予防医学	講師	櫻井 勝
研究協力者	金沢医科大学	健康増進予防医学	講師	中村 幸志
研究協力者	滋賀医科大学	社会医学講座公衆衛生学部門	大学院生	藤吉 朗
研究協力者	(財)放射線影響研究所	疫学部	副部長	笠置 文善
事務局	滋賀医科大学	社会医学講座公衆衛生学部門	教務補佐員	吉田 稔美

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金  
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業

「大規模コホート共同研究による  
生活習慣病発症予防データベース構築と  
その高度利用に関する研究」

平成 20 年度 総括・分担研究報告書

発行 平成 21 (2009) 年 3 月  
発行者 「大規模コホート共同研究による生活習慣病発症予防  
データベース構築とその高度利用に関する研究」班  
班 長 上島 弘嗣  
〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町  
滋賀医科大学 社会医学講座公衆衛生学部門  
TEL : 077-548-2191 FAX : 077-543-9732  
印 刷 宮川印刷株式会社  
〒520-0846 滋賀県大津市富士見台 3-18  
TEL : 077-533-1241 FAX : 077-534-0846